令和7年2月28日

名古屋市教育委員会 様

名古屋市立第三幼稚園長

令和6年度 学校評価報告書

学校教育の努力点（主題）	特に大切にしたい要素					
	I	II	III	IV	V	VI
つながる・広がる・育ち合う - 一人一人のよさを見つめて -		○				

1 実践のねらい

菊井中ブロックでは、昨年度から幼小中交流研修会を行い、発達段階に応じた学校間の教育の違いやつながりを理解し合う機会をつくっている。また、今年度は、幼稚園・小学校・中学校が連携し、「協同的(協働的)な学び」に視点を当て、同じ地域の子どもを共に育てていきたいと考えている。本園では、幼児の思いを踏まえ意図を込めた環境に、それぞれの時期の幼児が自ら様々に関わって遊ぶ中で、どのような協同性の育ちが見られるのか、協同性はどのように育まれているのか、協同的な学びとはどのような学びなのか、幼児の育ちと学びを丁寧に見取りながら、幼児一人一人のよさが十分に発揮され、育ち合える関係を築いていきたい。そして、幼児児童の交流、教師間の交流を計画的・継続的に行うことにより、架け橋期の幼児と児童の実態を理解し、系統性・連続性のある教育活動を展開していきたいと考えた。

2 実践のねらいに迫るための手だて

- ① 幼児が自ら環境に関わって遊ぶ姿から、協同性が育まれていると思われる姿はどのようなものかを学年ごとに具体的に考え、明確にしていく。
- ② 事例検討会や研究保育を通して、協同性がどのように育まれているのかを読み取り、幼児期における協同的な学びが育まれるための教師の援助や環境の構成について話し合ったことを、次の実践に生かしていく。
- ③ 幼小中交流研修会に参加したり、小学1年生と交流活動を継続的に رفتりして、系統性・連続性のある教育活動について考え、次年度の教育課程を見直す。
- ④ ICTを活用したドキュメンテーションや学年だより、学期末の保護者会等で、遊びの様子や育ちを保護者に伝え、幼児教育への理解が深まるようにする。
- ⑤ 保護者、地域等にもホームページやインスタグラム等を通して、情報提供し、学校評価につなげる。

3 実践の内容

事例検討会や研究保育を通して、幼児は、安心して安定した生活の中で自分らしさを発揮できるように支えられる中で、友達とつながる楽しさや自分と友達との違いを感じ、共通の目的をもち協同して遊びを進めていく楽しさを味わっていく姿が見られた。また、その根底には教師が幼児一人一人のよさや思いを丁寧に受け止める温かい雰囲気が必要だった。また、1年生との交流活動も回を重ねていく度に、小学生との関わりの中で新しい見方や考え方が生まれ、刺激を受け合いながら自分の興味や関心を広げていくことができる機会となることが分かった。

4 成果と課題

自己評価結果では、どの項目も高く、保護者アンケートも同様に高かった。幼児一人一人の協同的な育ちを把握し、協同的な学びにつながる教師の援助や環境の構成を整えてきたこと、幼児の遊びの中にある学びや育ちの過程をアプリで丁寧にかつ継続的に配信したことで、幼稚園と家庭とのつながりも深まった。また、小学校との交流回数を増やし継続的に رفتり、買い物や訪問等で地域に出かけたりしたことで、学校関係者評価では、「幼児が自らの考えを広げたり深めたりしていけるような環境の構成や教師の援助の工夫が幼児の育ちを支えていると思う。」「幼小中での連携や研修会を今後も続けていくことは大切だと思う」とご意見をいただいた。

5 来年度に向けて

幼小の交流活動では、交流が幼児児童それぞれにとって学びとなる経験となるための持ち方を模索中である。今後も、交流活動を重ねていく中で、互惠性のある交流活動となるように、相互の学びを明確にし、共通理解していきたい。また、幼小中交流研修会では、幼稚園・小学校・中学校が連携し、「協同的(協働的)な学び」に視点を当てながら、それぞれの発達段階に合わせた「協同的(協働的)な学び」を理解し、幼児期における協同的な学びをどう小学校・中学校へとつなげていくのかを考えていきたい。